

出題分析		
試験時間 80 分	配点 200 点	大問数 3 題
分量 (昨年比較) [減少] 同程度 増加]	難易度変化 (昨年比較) [易化] 同程度 難化]	
【概評】 例年通り「長文への多数の空所補充と、それに関する設問」という出題形式をとり、3 題のうち 2 題で有機分野を扱うことも恒例である。計算問題は典型的な一行題が多い。例年に増して良問が多く、本年は高得点を狙いやすい。いくつかの穴埋めと第 3 問の有機で差がつくと予想される。数年にわたり無機物質に関する問題はほとんど出題されていなかったが本年は数か所の空所補充で無機の知識が必要であった。空所補充の作りが独特であり、過去問でのトレーニング効果が大きい。昨年と比較すると、論述問題、本文分量のいずれも減少し、標準的な知識を問う問題が多いことから易化した。		

設問別講評			
問題	出題分野・テーマ	設問内容・解答のポイント	難易度
1	原子の構造・2 族の元素・溶解度・反応速度	終始平易な内容であり手早く解く必要があった。唯一手間がかかるのは、設問 3 の触媒による反応速度の増大の説明。75 字とやや多い字数となっているため、下線②、③と絡める点も含め、何を書くか悩んだ受験生もいたであろう。空欄補充 1 題、計算 1 題、論述 1 題	やや易
2	タンパク質の高次構造・グリシンの等電点	タンパク質の構造に関する幅広い知識が問われた。ほぼ基本的な知識の範囲であるが、四次構造の形成因子の例を挙げるシは様々な正解がある。設問 3、4 の等電点に関する計算処理は典型的な問題。空欄補充 1 題、反応式 1 題、式完成 1 題、計算 1 題	標準
3	芳香族環状エステル (ラクトン)・糖の構造	設問 2 の二糖類 G の決定は、構造はわかっても名前が浮かんだかどうか。設問 3 の芳香族環状エステルの構造決定は、けん化における水酸化ナトリウム消費量の違いで判別する必要があるやや難しい。フィッシャー投影で 2 つの物質を書かせる問題は正解者が少なかったのではないか。空欄補充 2 題、計算 1 題、構造決定 1 題	やや難

合格のための学習法

(日々の学習)

難解な問題に目が行きやすいが、標準的な問題も多く出題されるため、問題演習を通して標準的な問題を確実に解く力をつけることが最も大切といえる。空所補充問題の対策に特効薬はないが、最良の対策ツールの一つは教科書である。『読む』を習慣付けたい。これは、論述問題の対策にもなるであろう。

(受験直前期)

空所の作りが独特である本学部はその形式に慣れておくことも重要である。そのためにも過去問演習を徹底的に行いたい。また、時間配分の観点から『取れる問題を取る』が鉄則であり、満点を狙う必要がないことは、過去の本学部の合格最低点が物語っている。問題の取捨は人それぞれに正解がある。その訓練も過去問演習で行っていきたい。最後になるが、過去問演習を行った後はその結果を先生に見せアドバイスを受けよう。一人で考えるよりもいい処方箋をもらえるであろう。